

(ロ) 状態叙述——寝る・坐る等の叙述語を一つ挙げる毎に点数二點を與へるのであつて、お母さんとか、本とがいふやうに、個物を挙げただけのものには、こゝでは点数を與へません。

(ハ) 關係説明——病氣とか、看病とかいふ説明語を一つ挙げる毎に三點を與へます。

(三) 第三検査

正しく拾ひ上げた數の中の一番大きい數を以て直ちにその得點といたします。

(四) 合計點

以上の三つの検査の得點を、そのまゝ全部合計して、その子供の智能の得點といたします。

智能評價 右の合計點を基にして、その子供の智能の程度を精密に評價する、特別の方法が出来てゐるのでありますが、それをお話ししようとすれば、標準錯差の點數といふ煩雜な話をしなければなりませんから、それは近く刊行するところの、拙著「教育的兒童心

理學」に譲ることにして、今はほんの大體の見當をつけるといふ意味で、一番簡便な智能指數法で評價する方法だけを話いたします。

それには、前に述べたやうに先づ右の合計點を、精神年齢に改めなければなりません。それには次の表を用ひるのであります。

合計點	32	33	34	35	36	37	38
精神年齢	4.3	4.6	4.9	5.0	5.3	5.6	
合計點	39	40	41	42	43	44	
精神年齢	5.9	6.0	6.3	6.6	6.9	7.0	

例へば右のテストの合計點三十八點を取つた子供があるとするれば、その子供の精神年齢は右の表によつて5.6即ち五歳六ヶ月であるといふことが解るわけであります。この精神年齢を、その子供の満年齢で割つて百倍して、智能指數を出すといふ方法は、前の言語の發達指數を出す場合と全く同じ方法であります。

第二十講 興味型検査法

準備 この検査は、幼児に行ふ場合と、學童に行ふ場合とで、その準備の仕方が多少異なり、幼児の場合には、一人々々について別々に行ふことを本體として居りますから、次の検査問題だけあれば、他にその答を検査者がその都度記入するところの適當な用紙を用意するだけで、大した準備もいりませんけれども、學童や中等學校の生徒に行ふ場合には、團體式に一齊にやることになつて居ります爲に、その目的の爲に考案された、特別の「興味型テスト用紙」といふものが必要になります。これは名古屋教育研究所で實費でお願ひして居りますから、小學校以上で、多數について一度に試みられる爲には、そのテスト用紙を使用した方が便利かと思はれます。それに小學校の方は、特別に精密な採點法を用いるやうに、一定の手引書まで出來て居りますから、今こゝで一々詳しくそれをお話する

といふことは、到底この小著では許されないことでもありますから、こゝには主として、幼兒の検査法の場合を中心とし、それに學童の場合でも、一人々々を検査するといふ場合を豫想して、その方法だけについてお話を進めます。

検査に用ひる問題は次の七類四十九問題であります。

興味型検査問題

【第一類】

- 1 珍しいお話を澤山覚えること
- 2 お金を澤山頂くこと
- 3 皆の前で先生にほめられること
- 4 ピアノやオルガンの音を聞くこと
- 5 赤ちゃんを可愛がつて抱いて上げること
- 6 毎朝神様や佛様を拜むこと

7 汽車に乗ること

【第一類】

2 美しい御馳走を澤山頂くこと

3 かけつこして一等賞になること

4 美しい夕焼けの空をながめること

5 多勢のお友達と仲良く遊ぶこと

6 佛様にお花を供へること

7 遠足に行くこと

1 動物園へ行つていろいろの動物を見ること

【第三類】

3 からだが丈夫だといつてほめられること

4 お月様を眺めること

5 小さな子供が路で轉んで泣いてゐるのを起して上げること

6 お正月に神社にお参りすること

7 自動車に乗ること

1 汽車や汽船の中にあるいろいろの器械を見せてもらふこと

2 立派なお家に住むこと

【第四類】

4 ピアノやオルガンを自分でひいてみること

5 雨降りに傘を持たずにぬれてゐる子供を自分の傘に入れて上げること

6 困つた時神様や佛様に助けて下さいと願すること

7 山に登ること

1 壊れた玩具の電車や自動車を自分で直してみるこ

2 貯金を澤山ふやすこと

3 唱歌が上手だといつてほめられること

【第五類】

5 人から道を聞かれた時親切に教へて上げること

6 御飯を頂く時神様にお祈りすること

7 水泳ぎをすること

1 新しい文字を澤山教へて頂くこと

2 繪本を澤山買って頂いてしまつておくこと

3 戦争ごつこで大将になること

4 きれいな花を見ること

【第六類】

6 お宮の前を通る時お餅饅すること

7 まりなげをして遊ぶこと

1 繪本を見ていろいろの鳥の名前を覚えること

2 立派な洋服を澤山買って頂くこと

3 縄とびをして勝つこと

4 好きな唱歌を歌ふこと

5 水が足らなくてしほれてゐる草花に水をかけてやること

【第七類】

7 縄とびをして遊ぶこと

1 海の底にどんな動物があるか先生にお尋ねすること

2 どんぐりを澤山拾つてしまつておくこと

3 相撲をとつて勝つこと

4 面白い唱歌を聞くこと

5 電車に乗る時順番に乗ること

6. 獨り靜かに神様のことを考へること

検査方法 右の検査問題の第一類の1の問題を中心として、先づそれと2の問題とを比較させ、それから1と3、1と4といふやうにして、1と7との比較まで進め、その都度、どつちが好きかを子供に尋ねて、子供が好きだと答へた方の問題の番號だけを、適當な記入用紙に記入して行くのであります。

例へば、「『珍しいお話がたくさん覚えること』と『お金をたくさんいたゞくこと』と、どつちが好きですか」と尋ねて、若し子供が「珍しいお話の方が好き!」と答へたとしたら、その問題の番號1といふのを記入用紙に記し、次に今度は1と3との比較でありますから、子供に向つて「それでは『珍しいお話を澤山覚えること』と『みんなの前で先生にほめられること』と、どつちが好きですか」と尋ね、若し子供が「先生にほめられる方が好き!」とでも答へたならば、今度は1よりも3の方が好きだったのでありますから、3といふ番號だけを記入用紙に記しておけばよいのであります。

かやうにして、1の問題を中心として、1と7との比較までの六回の検査が終つたならば、今度は次の2の問題「お金をたくさんいたゞくこと」を中心として、それとまだ比較されてゐないところの、3から7までの問題との比較五回を行ひ、それがすんだら今度は3を中心として、これと4以下の問題との比較四回を行ひ、次に今度は4の問題を中心として、これと5以下の問題との比較三回を續け、次に5を中心として、これと6及び7との比較を行ひ、最後に6と7との比較を行ひ、これで各問題が必ず他の問題と一回づゝ比較されたことになり、七問題で合計二十一回の比較が行はれたわけであります。そしてその都度、どれかの番號の方を、一層好きだとして選ばせるのでありますから、記入用紙には、子供の選んだ問題の番號が二十一個だけ記されて居るわけでありませぬ。勿論問題は1から7までの七個しかありませんから、その記入用紙に記された、子供の選んだ二十一の番號の中には、同じ番號が幾つもあるわけでありませぬ。

そこでその二十一の番號の中に、1番が幾つ、2番が幾つといふやうにして、7番まで

の各番號の数をそれと計算して、後にそれを各興味型の得點とするわけであります。

第一類が終つたならば、しばらく休むか、或は又別の機會——午前第一類をやつたならば、第二類を午後にやるとか、或は翌日にやるとかいふやうに——を選んで、今度は第二類を、前と同じやうに行ふのであります。この場合には2番から始めて、最初は2と3との比較、それから2と4、2と5、2と6、2と7といふやうに比較して、更に2と1との比較を行ひ、そこまでの六回の比較が終つたならば、次に3を中心として五回の比較を行ふといふやうにして、最後の7と1との比較まで總計二十一回の比較を行ひます。第二類を終つたならば、やはり幼児の場合には、しばらく休んで第三類に進むやうにいたします。第四類以下第七類に至るまで、その方法は皆同じことであります。

採點法 検査がすんだならば、右の記入用紙に記された1から7までの番號を、各類別にまとめ、次に七類全部の合計を出します。それは、各類とも同じ番號の問題は、同じ興味の方角を示す問題を意味するからでありまして、その七つの番號の各々の記入数を求め

ると、それで七つの興味の方角における、その子供の特色を知ることが出来るのであります。

この場合の番號1は理論的興味の方角を示す問題であり、2は經濟、3は權力、4は審美、5は社會、6は宗教、7は活動の各興味型を示すものであります。

教育型の評價 右の七つの番號別又は興味型別に數へ上げられた記入數は、それとそ
の興味型の得點となるのでありますけれども、それらの點數が、直ちにその興味の種類を
表す値となるとは限りません。例へば満四歳六ヶ月の男の子が1の理論型の得點に於て二
十二點をとり、2の經濟型の得點に於て、二十五點を得たとすれば、この子供は、經濟的
興味、理論的興味より優つてゐるのかといひますと、決してさうではなく、むしろ理論
的興味の方が優つてゐるのであります。なぜかといふに、理論的興味は得點二十二といふ
點數は、次の標準の表によりますと、満六歳七ヶ月以上の子供の大部分の者の取る點數で
あるのに對して、經濟的興味は二十五點といふ點數は、満四歳二ヶ月以下の子供の大部分

が取るところの点数だからであります。即ちこの男の子は、理論的興味に於ては自分の年齢以上の発達を示してゐるけれども、経済的興味に於ては、自分の年齢以下の情態に止まつてゐるといふことが示されるのであります。

そこで、各興味型について、その合計点が何順位になるのが年齢相当なのかといふことを見出す爲の標準表が必要になるのであります。それが多数の幼児學童を検査した結果から作り出された次の意であります。

この表は、満十歳頃までの標準を示したものでありまして、それ以上の年齢のものは、むしろ右に断つておいた精密な方法による方が望ましいと思つて省いたものであります。

この表によつて、各興味型の大體の発達年齢が定められるのであります。例へば或る女の子が宗教型即ち6番の番號の数が二十五あつたとしますと、その子の宗教的興味の程度が、六歳七ヶ月から六歳八ヶ月の間の一般の子供のもつてゐる興味の程度に相當するものであるといふことが見られるのであります。若しそれを、その子の満年齢と比較するなら

興味型検査得点標準表

発達 歳,月	年齢 歳,月	理論型		経済力		審美		社會		宗教		活動			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
3,9	4, 2	19	20	25	24	23	20	20	22	19	20	18	2	23	23
4,3	4, 8	20	20	24	24	22	19	20	22	19	20	19	20	23	23
4,9	5, 2	21	20	23	24	22	19	20	22	19	21	20	20	23	23
5,3	5, 8	21	20	23	23	22	19	20	22	19	21	20	20	23	22
5,9	6, 2	21	20	23	23	22	19	20	22	19	22	21	21	23	22
6,3	6, 4	21	20	23	23	22	19	19	22	20	22	22	20	22	22
6,5	6, 6	21	20	23	23	22	19	19	22	20	23	23	24	22	21
6,7	6, 8	22	20	23	23	22	19	18	22	20	23	24	25	22	21
6,9	6,11	22	21	23	23	22	19	18	22	21	24	25	26	22	21
7,0	7, 2	22	22	23	23	22	19	17	22	22	25	27	28	21	20
7,3	7, 5	23	22	23	23	22	19	17	22	23	26	28	29	21	20
7,6	7, 8	23	22	22	22	22	19	17	22	24	27	29	30	21	20
7,9	7,11	24	23	22	22	22	19	17	22	25	28	30	31	20	19
8,0	8, 2	24	23	22	22	22	19	17	22	26	28	31	32	20	19
8,3	8, 5	24	23	21	22	21	19	17	22	26	29	32	32	20	18
8,6	8, 8	25	23	21	21	21	18	16	22	27	29	33	33	20	18
8,9	9, 0	25	23	21	21	20	18	16	22	27	30	33	33	20	18
9,1	9, 4	26	24	20	20	20	17	16	22	28	31	34	34	19	17
9,5	9, 8	26	24	20	19	19	17	16	21	28	31	34	34	19	17
9,9	10, 2	26	24	19	18	19	16	15	21	28	31	34	34	19	16

興味型検査法

三七五

ば、普通以上か、普通か、普通以下かといふやうな程度まで評價することが出来るわけ
あります。

この興味型の評價方法にも、智能の場合と同じやうな、精密な、標準錯差の點數を出す
ところの方法が備つてゐるのでありますけれども、餘りに煩雜にわたりますので、その確
實な方法に関する研究は、すべて近刊の拙著「教育的兒童心理學」に譲つて、こゝでは、
家庭教育の立場から、家庭で實行出来る程度の、成るべく簡単な方法で大體の見當をつけ
るところの方法を先づ試みるといふ方針の下に述べられたものであるといふことを充分了
解していただくかなければなりません。

先づこの方法で一應の研究を、我が國について試みた上で、これらの研究によつて得ら
れた兒童心理の常識と、直接兒童を指導された深い體驗とをもつて、更に深遠なる兒童心
理の研究と、家庭教育の眞髓の體驗とに向つて精進せられることを切望して止まないもの
であります。

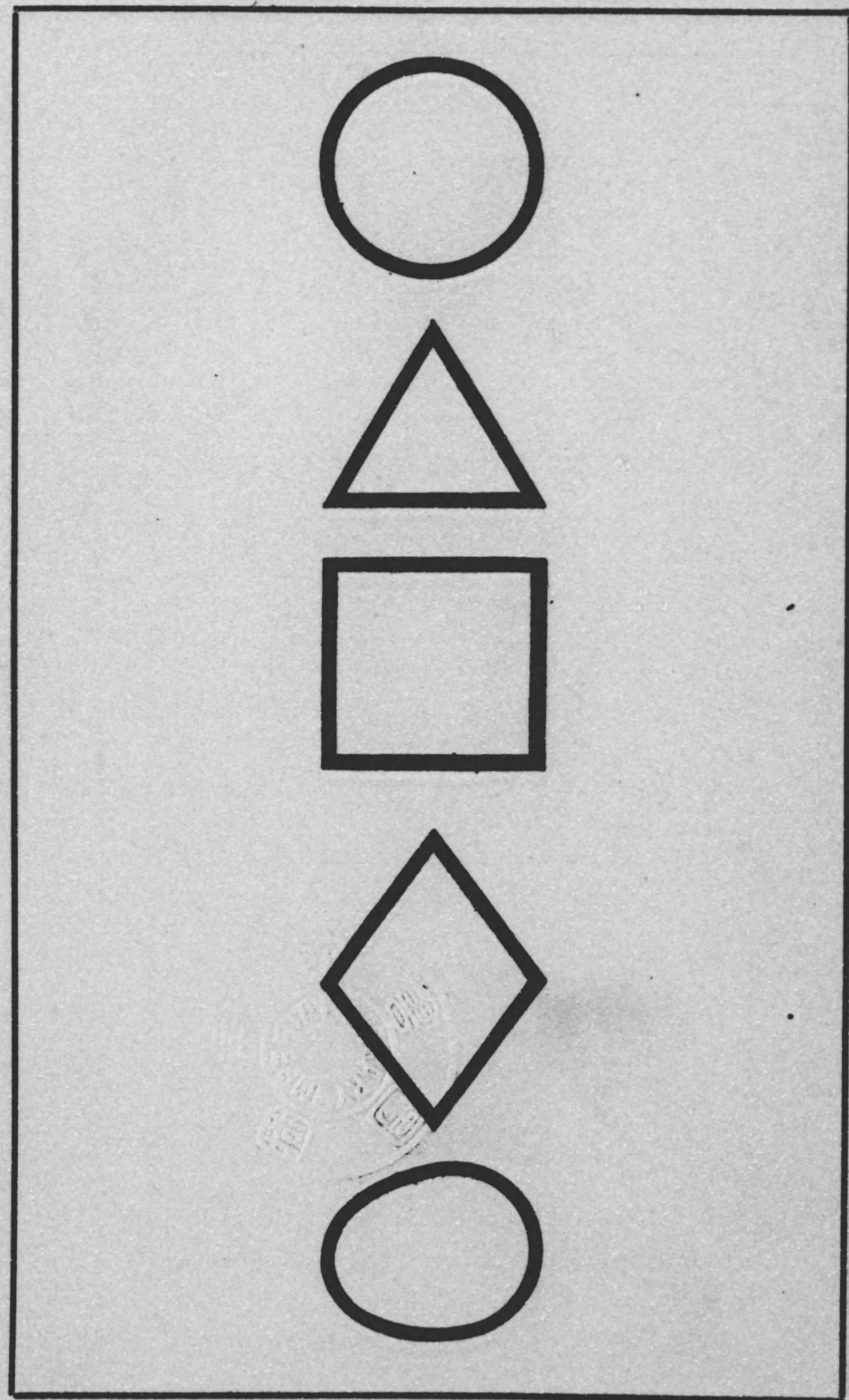
附録 第一圖

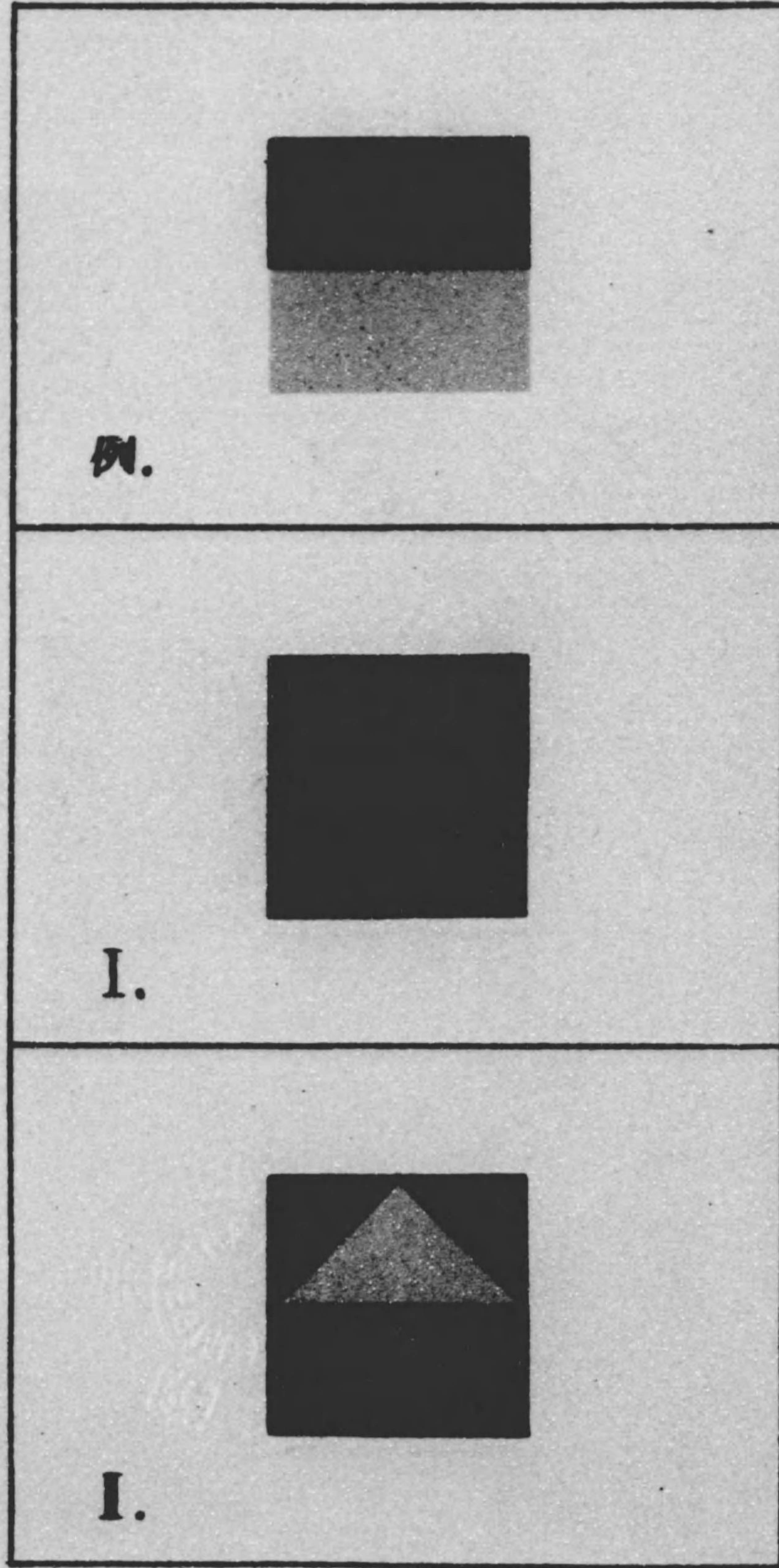


附錄 第二圖



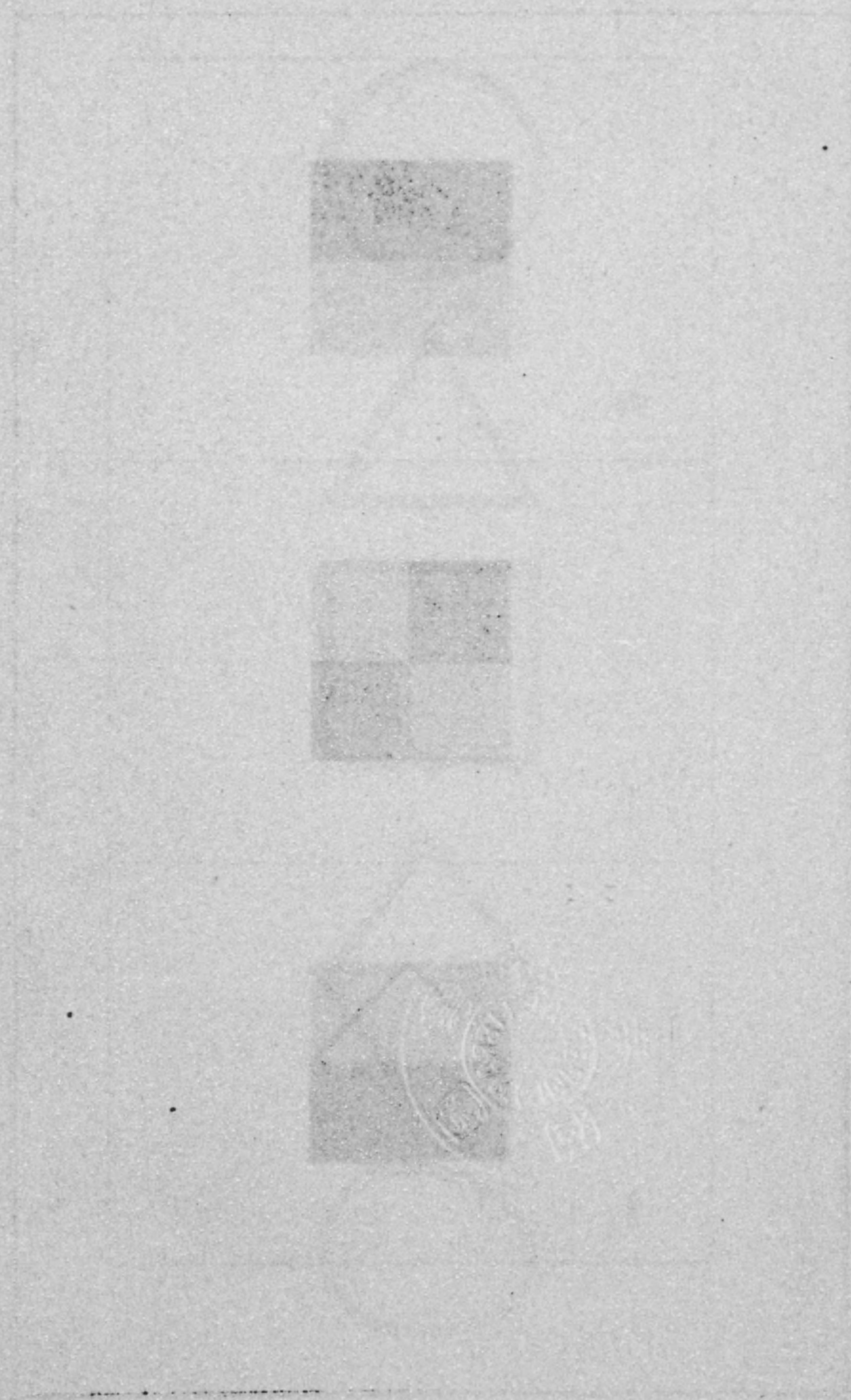
附錄 第三圖



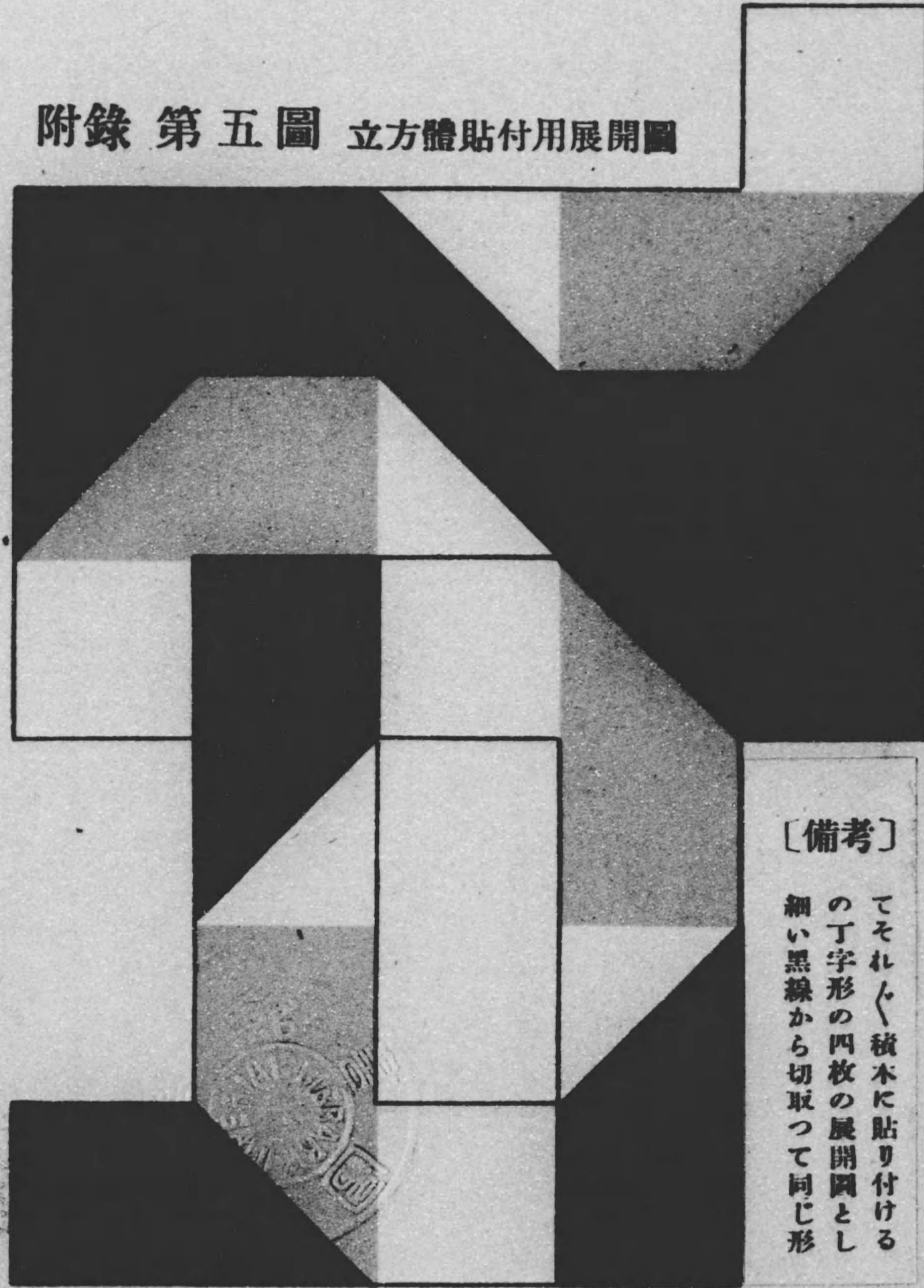


附錄 第四圖

立方體構圖テスト構圖

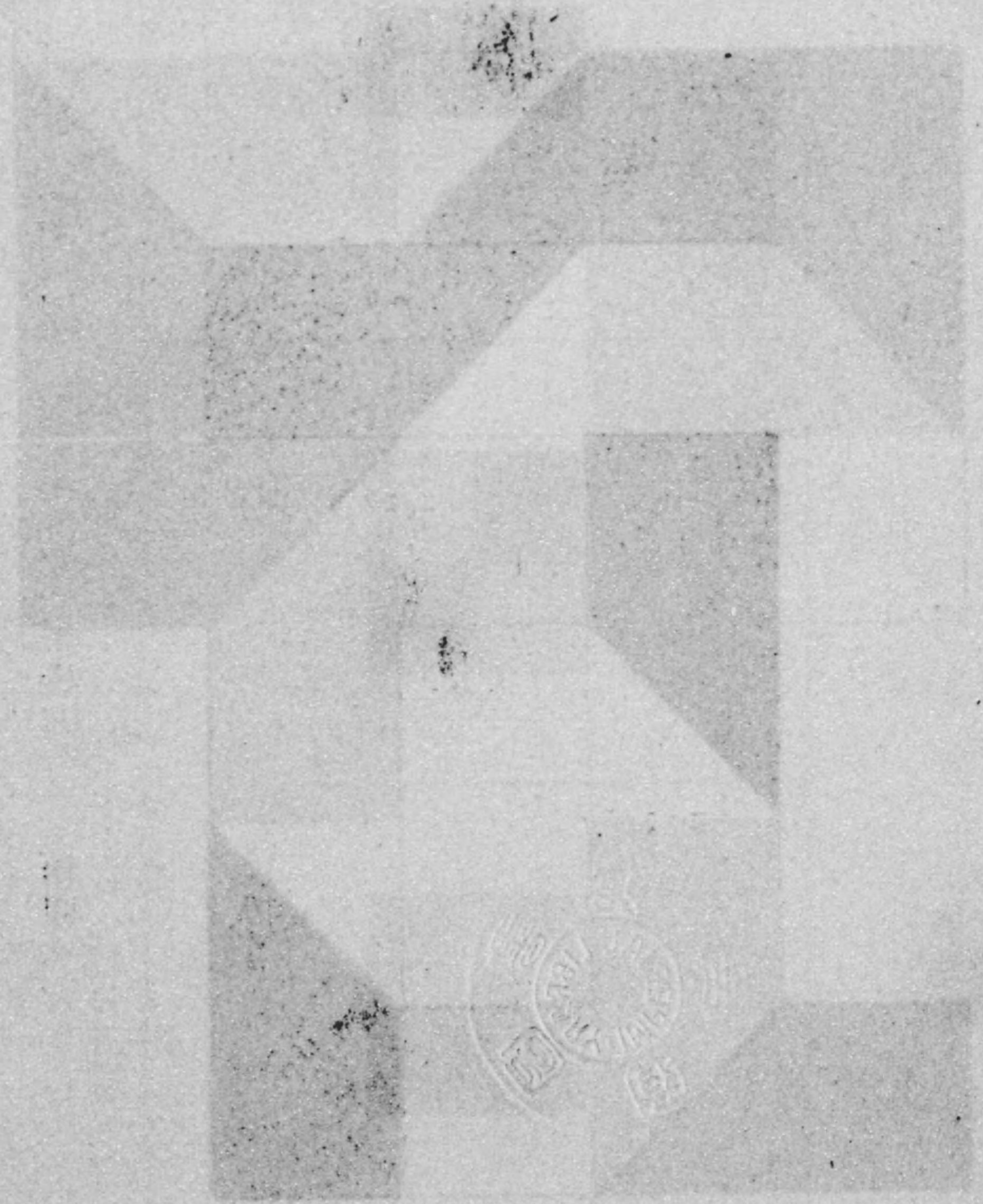


附録 第五圖 立方體貼付用展開圖



〔備考〕

てそれ／＼積木に貼り付ける
の丁字形の四枚の展開圖とし
細い黒線から切取つて同じ形



昭和七年十一月廿五日印刷
昭和七年十一月廿五日發行

【定價金貳圓五拾錢】

版權所有

著者兼
發行者

名古屋市東區田代町小坂下一番地

石川七五三二

印刷者

東京市芝區愛宕町二丁目十三番地

宮崎兼三

印刷所

東京市芝區愛宕町二丁目十三番地

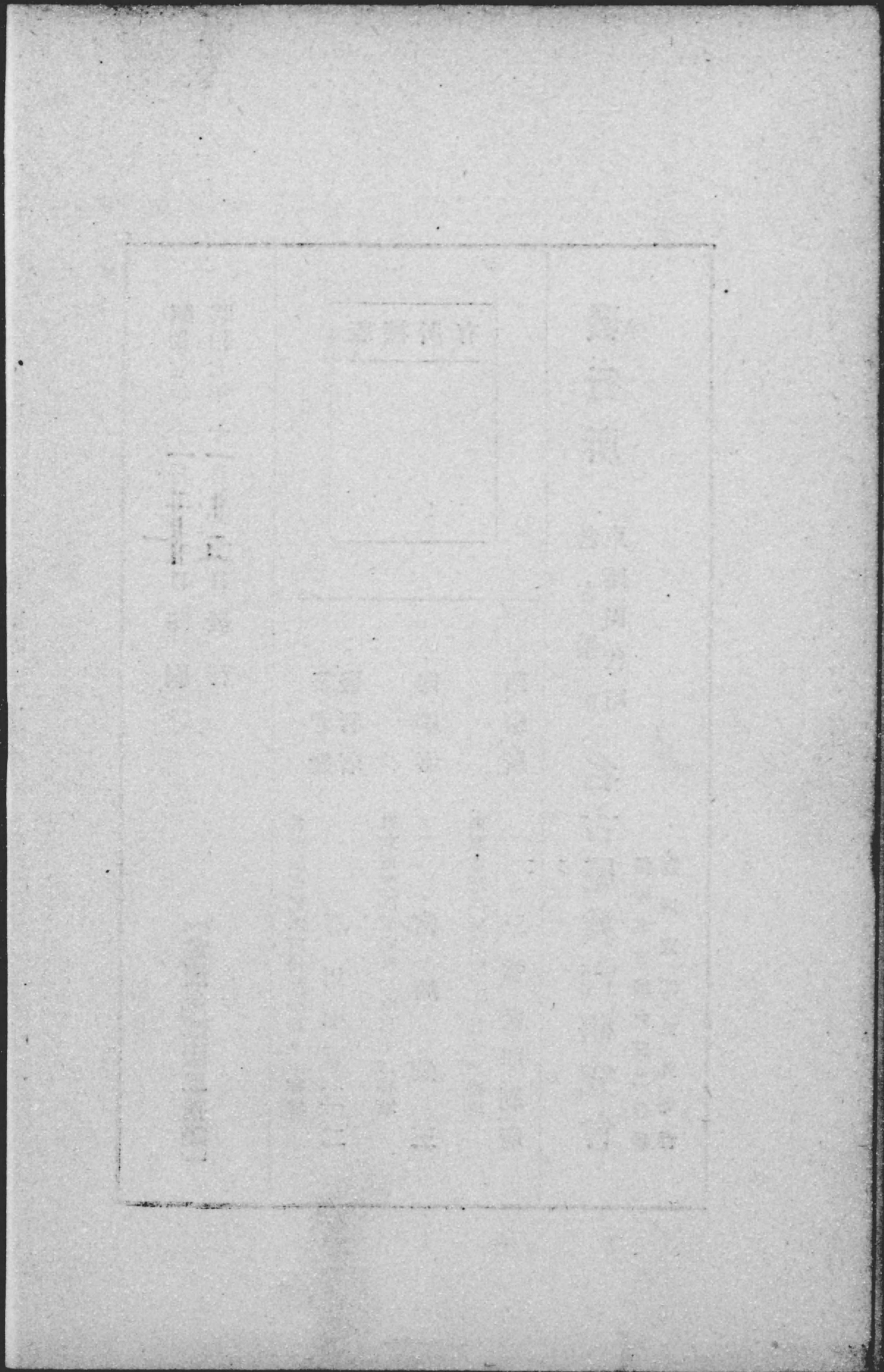
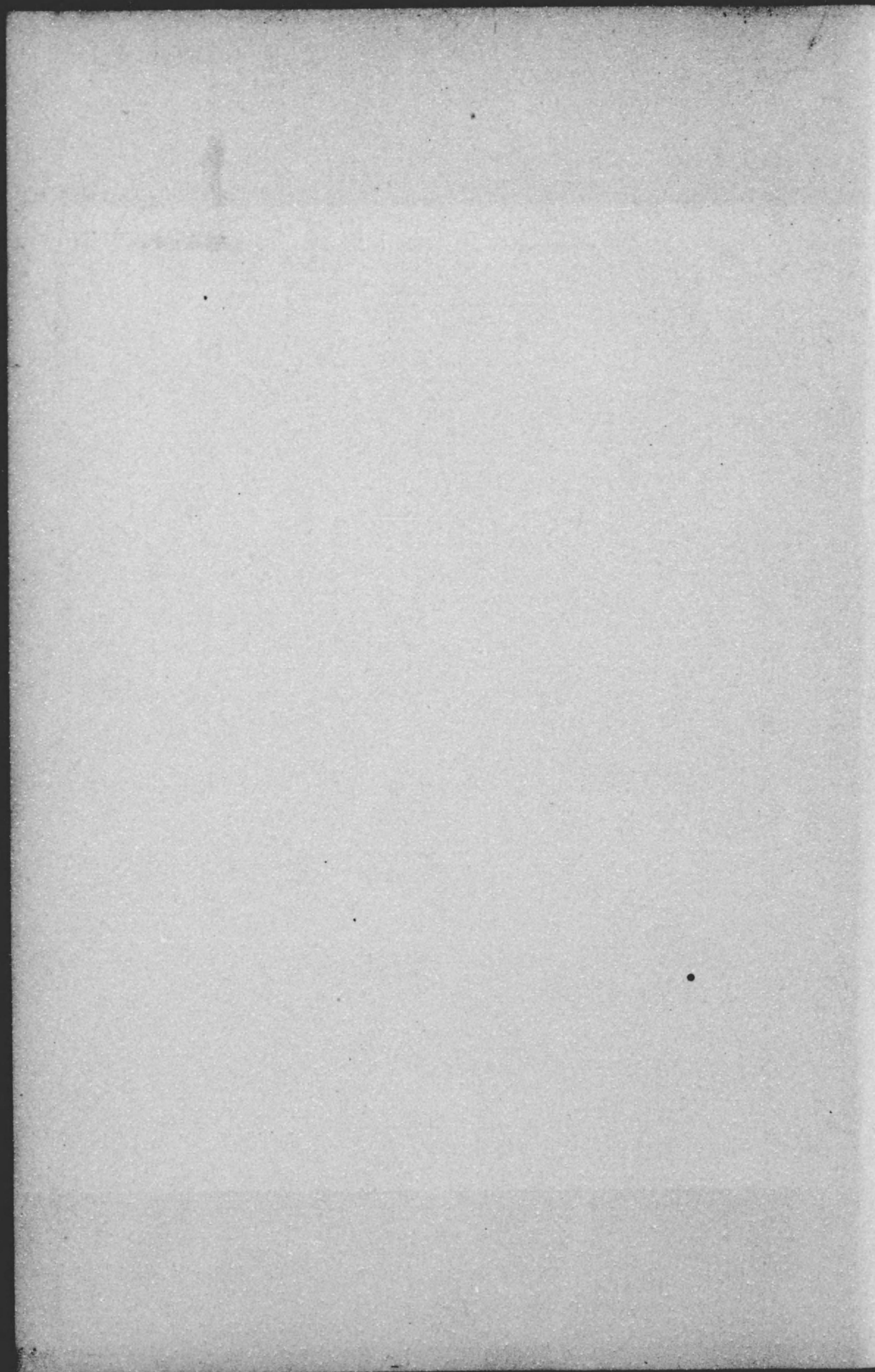
三賞社印刷所

發行所

名古屋市東區田代町

名古屋教育研究會

電話 名古屋九三二〇番
電話 東二九九七番



271
138

7年12月7日 138

○	○			○	○	○	○	○	○

現貨

